

登録コード	J5160200	開講年度	2026	県内大学開放授業						
授業科目	国際経済学						担当教員	青木 周平		
英文授業名							副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限			対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：3年/法：3年	
講義室	経法第2講義室			授業区分	講義	遠隔授業科目				
信大コンピテンシー	非該当									
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」						⇔	【授業の達成目標】		
	経法20加									
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。					⇔	経済学または法学が積み上げてきた知識として、国際経済学の理論を身につけ、国際貿易への理解を深める。			
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済									
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。					⇔	専門知識を応用・実践する力として、国際経済学の理論を身につけ、国際貿易への理解を深める。			
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。					⇔	専門領域での基礎知識として、国際経済学の理論を身につけ、国際貿易への理解を深める。			
(2)授業で学べる「テーマ」	その他									
(3)全学横断特別教育プログラム										
(4)授業の概要	国際経済学、特に国際貿易に関する基礎的な理論を学習する。									
(5)授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 国際貿易の概観 第3回 労働生産性と比較優位ー比較優位の概念 第4回 労働生産性と比較優位ー多くの財での比較優位 第5回 特殊要素と所得分配ー特殊要素モデル 第6回 特殊要素と所得分配ー所得分配と貿易の利益 第7回 資源と貿易ーヘクシャー・オリーフ・モデル 第8回 標準貿易モデル 第9回 規模の外部経済と生産の国際立地 第10回 グローバル経済の企業 第11回 貿易政策のツール 第12回 貿易政策の政治経済 第13回 発展途上国の貿易政策 第14回 貿易政策をめぐる論争 第15回 本講義のまとめと授業アンケートの実施 期末試験									
(6)成績評価の方法	確認テスト(30%)＋期末試験(70%) 確認テストは、学期中にeALPS上で2週に一回程度の頻度で行う予定である。									
(7)成績評価の基準	授業で説明した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、授業で説明した内容を多少修正した問題が解ければ「やや上にある」、授業で説明した内容を大幅に拡張した問題が解ければ「かなり上にある」、授業では十分に説明していないがより上級の内容の問題が解ければ「卓越している」。									
(8)事前事後学習の内容	・教科書を読んで予習・復習を行うこと。 ・eALPS上で確認テストを実施する。問題を問いて理解できているか確認し、解けなかった箇所は復習すること。									
(9)履修上の注意	単位取得のためには、授業に出席して講義内容を理解することが必要である。									
(10)質問、相談への対応	・授業中の質問を歓迎する。 ・この授業では、チューター・セッションの時間を設けている。これは、本授業を履修した学生もしくは大学院生によるチューターが、受講者の質問等に答える制度である。昼休みの時間に実施する予定である。受講者は、チューター・セッションを積極的に利用してほしい。 ・個別の質問がある場合は、オフィスアワーに、もしくはメール(shuheiaoki@shinshu-u.ac.jp)で日時を相談の上、研究室(経法学部研究棟606室)面談することも可能である。さらに、メールでの質問も受け付ける。									
【教科書】	クルーグマン、オブストフェルド、メリッツ著『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕上：貿易編』、丸善出版、2017年。									
【参考書】										